

施設名	児島湾干拓施設群								
所在地	岡山県 岡山市								
管理者等									
施設種類・分野	樋門・閘門								
施設概要 (明治期との関連含む)	<p>対象施設は、丙川三連樋門、大曲第一樋門、大曲第二樋門、大曲第三樋門、奉還樋門、(旧)片崎樋門、高崎干拓堤防(文献2より抜粋)</p> <p>丙川三連水門は児島湾からの海水進入防止と上流の余水を確認し、さらに丙川を渡る橋梁とするために明治37年7月17日に完成した。中央のアーチ部分の径間は12尺(約3.6m)、左右両側は径間10尺(約3m)でアーチの形状が真円ではなく楕円であることから大曲の樋門よりは後に作られたもので、設計は笠井愛次郎工学士と渡辺弁三主任技師とされている。明治以降の近代的な干拓事業により児島湾内が干拓され、わが国の先進的な機械化農業地帯としての発展を支えたのが児島湾干拓施設群ともいえる。(文献1より抜粋)</p>		 <p>出典:土木学会HP 文献1</p>						
築造時期	明治中期		時期詳細		-				
関連人物	笠井愛次郎工学士、渡辺弁三主任技師								
関連企業	-								
トピックス (特徴的エピソード)	この樋門の完成後、外側は港として活況をみせ、石炭・飲料水・海産物の荷受、米・麦の出荷のために多くの船が出入りしました。中央の樋門の要石がずれているのは、米輸送船の鶴形丸が操船ミスで衝突した跡です。樋板が木製から鉄製に、樋門の開閉が手動から電動に改修されたものの、現在も重要な樋門として使用されています。(文献1より抜粋)								
歴史的な遺産等の指定の有無等	○	選奨土木遺産 (土木学会)	○	文化財 (文化庁)	-	近代化産業遺産 (経産省)	-	世界遺産 (ユネスコ)	-
その他 (関連資料、文献)	<p>文献1:中国建設弘済会アーカイブス (http://www.ccba.or.jp/archives/pdf/34.hinoegawa.pdf)</p> <p>文献2:土木学会 選奨土木遺産解説シート (http://committees.jsce.or.jp/heritage/node/469)</p> <p>文献3:土木学会 中国地方の選奨土木遺産(改訂版)</p> <p>文献4:土木学会 日本の近代土木遺産(改訂版)</p>								
管理者等のHP (URL等)	岡山県 http://www.civil.pref.okayama.jp/hyakusen/chronicle2.html								